

コクヨ株式会社の経営理念

「世の中の役に立つ」企業として

創業者黒田善太郎は、1954(昭和29)年の創業50周年を機に、自らの思想を「経営の信条」としてまとめた。以来、この信条はコクヨの経営思想となり、仕事に対する心構え、仕事に取り組むうえでの基本的な考え方として、社員に受け継がれ続けている。

「天職を全うする」——この考え方は、コクヨの経営の根本である。黒田はコクヨを創業した時、人間を超えた大きな存在から「黒田はこういう仕事をしたらどうか」と言われて仕事につかせてもらった、つまり「天職」を与えられたと考えた。「天職」であるとすれば、これは全力を尽くして全うし、世の中の役に立たねばならない、と決心したのである。

ただ単に利益を得るために企業は活動をすすめるのではない。もちろん、利益は企業活動に重要である。しかし目的ではない。利益は、

世の中の役に立つという目的を果たすための最強、最高の道具なのである。

「常」と「変」を両輪に前進を

コクヨの社員となり、コクヨの商品・サービスを通じて、世の中に貢献していくことが、世の中の役に立つということにつながる。これは、コクヨにとって絶対に変えてはいけないこと、不変の考え方、つまり「常」である。

しかし、世の中は激しく流れ、変化し続けている。その世の中の変化に合わせて、商品を作り替え、サービスを見直していかなければならない。そのためには自己改革が必要となる。改革したり、新しいことを実行する「変」は、企業の活動に欠かせない。

「常」と「変」の二つが、車の両輪のようにうまくかみ合いながら「世の中の役に立つために」前進していくことが、コクヨの指針となっている。

経営の信条

人は無一物でこの世に生を享け父母の恵み・恩師の導き・社会のお蔭によって心身ともに成長し、やがて社会に出て一つの仕事を与えられる。それは天より授けられた天職である。

天職には貴賤の別なく、人が生ある限り自らの全力を尽くして全うせねばならぬ。天職を全うするには人の信を得る事が最も

大切である。人に信を得る最善の道は、自ら誠を以て実行する事である。

真心を以て買い、造り、そして売れば、人おのずから信用し、人に信用を受ければ天職はおのずから全うしうる。

誠心誠意不言実行之が私の経営の信条である。